

平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 一般向け講演会 報告書

1. 講演会名：VR 認知症疑似体験「認知症当事者の体験を知る」
2. 目的：広く若年性認知症について啓発を行うと同時に、講演会を通して若年性認知症当事者の方の体験を知り、必要とされる支援について考える場とする。
3. 対象：本人、介護家族、一般市民、企業の皆さん、専門職、すべての皆様
4. 方法：認知症疑似体験 VR を体験し、その後に若年性認知症当事者の体験を発表する。
5. 日程及び場所

2018年7月6日（金）14:00～16:00（受付開始 13時半）定員100名

2018年7月7日（土）10:00～12:00（受付開始 9時半）定員100名

会場 沖縄県総合福祉センター西棟4F第5・6・7会議室

（〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1）

6. 講師：前半1時間半 VR 体験：株式会社シルバウッドVR事業部 大谷 匠 氏
後半30分 当事者発表：大城勝史氏（司会 CN中野小織）

7. 参加費：無料

8. 配布資料：なし

9. 共催：沖縄県社会福祉協議会 介護実習・普及センター 第8回福祉機器展2018

10. 申し込み方法：沖縄県社会福祉協議会 介護実習・普及センター 098-882-1484

申し込み締め切り：平成30年6月15日（月）まで

11. 広報

新オレンジサポート室発信：

チラシ郵送 5/7 県内 541 件

沖縄県発行 沖縄県認知症対応機関団体等リスト全カ所

F A Xでの案内 専門職団体 2 カ所

沖縄県介護支援専門員協会、（一社）沖縄県グループホーム連絡会

（公社）認知症の人と家族の会

沖縄県社会福祉協議会 介護実習・普及センター発信：チラシ発送 1328 カ所

12. 申し込み状況

7月6日（金）100名、 7月7日（土）100名 ※6/12定員に達し、締め切った

13. プログラム

	開始 時間	終了 時間	内 容	所要 時間	発表者
7/6	受付 13 時半				
1	14:00	15:30	VR 体験	90 分	VR 事業部大谷匠氏
2	15:30	16:00	認知症体験を語る	30 分	若年性認知症大城勝史氏
7/7	受付 9 時半				
1	10:15	11:45	VR 体験	90 分	VR 事業部大谷匠氏
2	11:45	12:10	認知症体験を語る	25 分	若年性認知症大城勝史氏

14. 当日の様子	参加者総数	2日間合計	171名	(7/6 95名 7/7 76名)
参加者状況	本人	2名	(7/6 1名 7/7 1名)	
	介護家族	6名	(7/6 3名 7/7 3名)	
	医療	23名	(7/6 8名 7/7 15名)	
	介護保険事業所	66名	(7/6 35名 7/7 31名)	
	行政・包括・社協	39名	(7/6 33名 7/7 6名)	
	労働・企業	0名		
	一般	7名	(7/6 4名 7/7 3名)	
	学生	28名	(7/6 11名 7/7 17名)	
キャンセル状況	当日キャンセル	29名	(7/6 6名 7/7 23名)	

7. 講義内容

VR体験：VRを開発した銀木屋は、もともと鉄を売っていた。世代交代とともに鉄素材での住宅販売に展開し、海外での展開に向けて視察していたところ、住宅のあり方について考えが変わっていったという。千葉・東京近辺に12のサービス付高齢者住宅を運営している会社が、今回厚労省の補助金でVR開発し、完成したVRで研修会を実施している。VR制作にはサービス付高齢者住宅の入居者の証言のほか、若年性認知症当事者として啓発に向けた講演会活動をされている8名の方が関わられている。VR研修は開発の終了した平成29年度より開始し、受講者は現在までに17,000人で、150セットのVR機器は、ほぼ毎日全国でフル活用の状態という。VRを開発した銀木屋について：銀木屋が運営するサービス付高齢者住宅は、看護師・介護福祉士・歯科衛生士などの専門職が3名ほど常駐し、入居者の介護度は平均で2.4という。介助量のある方には、介護保険内のプラン（会社側の別運営する訪問介護ステーションから利用する仕組みで運営）でカバーされているが、常駐する歯科衛生士なども個別に支援を提供することもあるという。

VR体験内容について：1. 通所から送迎で自宅に帰る際、送迎バスの乗り降りの場面。踏み台の1段が、車輻の陰と重なり、高層ビルの屋上から下を眺めているように体感したケース。2. 混み合う電車の場面。声をかけられるがどの方向から声をかけられているのか、わからないケース。3. レビー小体型認知症当事者が友人宅を訪ねるが、家のあらゆるところに人の残存がおり、携帯電話の充電コードは蛇になってこちらに向かい、出されたケーキからは虫がわき、頭上ではチカチカとした線香花火のような火花が見えているという体験を再現。（スライド資料なし）

若年性認知症当事者として大城勝史さんの発表：聴講されている皆さんと一緒に、大城さんもVRを体験して頂き、その感想と自身の体験について発表頂いた。

コメント内容：VRで送迎バスの踏み台の1歩が、高いビルから下を眺めているように見える場面では、大城さんの場合には、階段の奥行きがわからず、すべて平面に見えるため、いつも怖い思いをしていると話された。電車の場面と同様に、大城さんもどこから声をかけられているのかわからないという。特に後ろから声をかけないで欲しい。後ろから声をかけられると、なぜか急に怖くなり逃げたこともあった。レビー小体型認知症のかたの幻視を体験し、こんなにはっきり見えるものだと知った。ぼくには幻視はないが、ただ疲れてくると霧がかかる。そのため、寝て休憩を取りながら仕事をしている。「すっきりすると霧はしっかり取れる」という体験をしていると話された。

15. 参加者アンケート結果

アンケート結果 回答 156名 回収率 91.2%

問 本日の内容について感想を教えてください

Q. 本日の満足度を教えてください。

大変満足	満足	やや不満	大変不満	無記入
74.3%	23.1%	0%	0%	2.6%

Q. VR体験で認知症の理解が進んだか

大変満足	満足	やや不満	大変不満	無記入
85.2%	12.2%	0%	0%	2.6%

問 本日の感想をお聞かせ下さい（自由記載）

- ・自分事として体験できた
- ・理解しにくい症状を体感できた
- ・実際に体験できて良かった。認知症への理解につながった
- ・認知症の方の見え方など、感じていることがわかって、今後の自分の対応の仕方を見直すことができた
- ・当事者の気持ちがわかった
- ・幻視が見えると聞いた事はあっても実際の見え方はわからなかったもので、体験できよかった。大城さんの話も興味深く、忘れるだけでなく恐怖を感じていることにびっくりした
- ・幻視の体験ができて、認知症の方の気持ちがわかりました。接し方を見直したい
- ・実体験でき、とても勉強になりました。
- ・VRで見えたような恐怖を日々感じているのが、認知症の人達だと知った
- ・疑似体験することでその方の立場になってあげることができる、学びができました。声かけの方法も考えて行きたいと思う。
- ・実際の体験に近く、想像力を広げることができた
- ・相手の立場を体験することによって、何に困っているか少し理解することができた。
- ・銀木犀の話もとても参考になりました。地域でも使えそうです。
- ・認知症のかたの立場に立って考えること、声かけの仕方をきづいたこと、体験出来たことが何よりもよかった
- ・認知症はもの忘れ、妄想、記憶障害と思っていたが、このVRによって体験することでどんなものなのか？と具体的に知ることができ、幻視、幻覚などの陽性症状があるんだとわかった。教科書でレビー小体型認知症の勉強をしましたが、きれいに抜け落ちていることに気付いた。
- ・レビー小体型のかたの幻視の見え方や、階段を降りる時の怖さはVRの体験で、よりわかりやすかった。また、接し方もVRで体験して参考になりました
- ・貴重な体験となりました。文字や言葉で「理解する」「寄りそう」とは良く聞くが体験するという事は難しい
- ・VR体験することで認知症の人の感じていることが、少しでもわかることが出来て良かった。大城さんの実際のお話を聞くことができて良かった。

- ・VRで、より当事者の現実がわかった
- ・相手のお話をよく聴き、理解すると不安がへることを学んだ。積極的に理解に努めることが必要と感じた
- ・VR体験で認知症の人の不安や恐怖心を理解できました。理解することで支援の仕方も変わってくると思います。
- ・認知症は特別なものではないと、改めて気付いた
- ・文字や言葉で認知症の理解とは違い、当事者を体験できることは支援者側としても貴重な体験だと思う
- ・「大丈夫」と決めるのは認知症のひと本人で、周りが「大丈夫ですよ」などと声かけても不安は除けないと思いました。
- ・VR技術は認知症を感じるために有効だと思う。認知症を持つ方の立場になることでより理解を深めることができた
- ・実際の体験談を聞くことができよかった。とてもためになった
- ・VRを体験できたこと、それが共感につながり、支援につながると思った
- ・認知症のあるかたの背景がみえた。私がみえている世界と違う。少しでも共感し、より支援していきたいと思った
- ・VRを体験することで身近に考える事が出来、色々な人との意見交換で、それぞれの意見を聞いてよかった
- ・体験や当事者の生の声を聞いた事がよかった
- ・認知症の方と接してきたが、ここまで大変な生活を送っているのだと知ることができた
- ・大城さんの声がきけた
- ・認知症の人が感じている世界、感覚を体験することができ、貴重な経験となりました。教科書的な知識の理解のみでなく、感覚として感じる事ができたのは、認知症の人の気持ちに共感できる材料となりました。レビー小体病の幻視がとても印象的でした
- ・本などでは理解しきれない感情の部分を、身をもって体験できた
- ・認知症を視覚で体験するということが想像つかなかったのですが、車から降りる動作のVRで、なるほどと思いました。最初は、なぜここにいるのかもわからないし、何をしている所か全くわからないという状況をまさに体験できました
- ・体験しないと、やはりわからない事があるんだと改めて思いました
- ・(スライドの当事者の語りで) 知的好奇心をもって、どうしましたか? どうしてほしい? と具体的に声をかけてほしいという事に気付いた
- ・共感者になることが、今後望まれる姿勢であると感じた
- ・イメージが変わった。声かけの仕方がわかった。
- ・幻視がとても驚いた。虫が動いていたりするのを消えたとしても、ケーキは食べれない。声かけをどうしていくのがベストなのか、考えさせられた。
- ・本で読む、当事者のかたをみるなどの経験はありましたが、想像の理解とVRをみての理解は違うと感じた。認知症がより身近に感じられ、大城さんの話もすんなり、受入れやすくなった。
- ・VRで実際の認知症の方の立場になって疑似体験できてよかったです。認知症の方の介護をしている人は是非一度、体験してみた方が気持ちになって考える機会になる

- ・VR体験をして実際に当事者の事をする事で理解でき、よかったです。とても貴重な体験ができ参考になりました。これからの業務、生活のなかで活かしていきたい
- ・VRって何という興味あって参加しました。気付かされる点、改めて気付きました
- ・学校の授業よりもはるかに勉強になった。感覚的に体験できることによって、手を差しのばしやすくなったと思う、
- ・認知症サポーター養成講座や本などで、認知症の方へ接する場合には正面から相手から見えるところで声かけをすると習ったが、VR体験でその重要性がわかった。また、何をするのか事前に説明することがとても大切だと思った
- ・こんな風を感じていたんだと振り返るきっかけになりました。認知症の方の家族の方たちにももっと体験してもらって、お互いにストレスが軽減してサポートできる体制ができていったらいいなと思いました
- ・大城さんの意義のある実体験が聞けて、すごく勉強になりました
- ・レビー小体型認知症体験は衝撃的でした。すごく怖くて、つらいだろうなと実感しました。皆さんに体験してほしいです。
- ・普段からこんなに怖い思いをしているというのは、VRで体験するまでは実感できなかった。知識だけでなく、しっかり共感できるということを学べてよかった。
- ・共感が少しでもできてよかった
- ・頭でわかっているつもりの一部を体験することができて、とてもよかったです。他の人にこの体験を伝えていくこと、すごく難しいと感じたので、VR体験出来る機会が増えるといいなと思いました
- ・認知症に対しての内容、理解をすることが出来ました。
- ・リアルにみることができたうえに、当事者の方のインタビューやお話をきけたのが本当によかった
- ・認知症について今までとは違うとらえ方を学ぶことができ、いい勉強になりました
- ・VR体験ですごく理解が深まり、多くの方に体験してもらいたいと思いました。講義や当事者の参加も有り、より理解が深まって、素晴らしい講演会で大変満足です
- ・実際に会ったり、聞いたりするだけでは、どう相手を感じているかわからないが、体験することで「こんな気持ちでいるんだ」と気付かされる部分が多くあった。
- ・もっと深く、対応方法までディスカッションする時間があつたらよかった
- ・VR体験をする前と後では、共感の度合いが違った。何に困っているのか？具体的に聞くことで不安を和らげることが出来ると理解できた。
- ・VR視聴で体験したことで、その人の視野や気持ち、実際の目線を感じる事が出来てよかった。今後活かしたい
- ・体験ができるということは、すごくよい経験でした。聞く見るだけでは得られない
- ・認知症のかたが、日常の中で沢山の不安をかかえて生きていると感じました。「視界に入ってから話しかける」早速始めます。
- ・後ろから声をかけられたり、急に声かけられると、とてもこわい。自分も気をつけようと思います
- ・利用者の実験の体験談をリアルに体験出来るのですばらしい。
- ・認知症に対する理解が深まりました。色んな人に優しくできたり、手助けできるのだとわかりました。すごくよい研修でした。
- ・これまでぼんやりとしかわかってなかった事が、少しですが見えてきたような気が

します。ただ声をかけるのではなく、「何に困っているか」を具体的に話せるよう援助することも大切だと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

- ・想像だけではわからない部分を、理解することができて良かった
- ・楽しく学べた
- ・認知症の人に対し、家族、施設のかたのイメージは、頭ごなしにダメダメ言っているようなイメージでした。そのため、私自身どのように関わっているのかわからない状態でしたが、声のかけ方など、本人がどのような支援を望んでいるか聞いてみようと思います。大城さんの話を聞いて、お子さんの話もとても良く、介護の本来の目標とすべきことだと思いました。
- ・認知症のかたの感情面、内定に起きていることがすごくイメージできた
- ・声をかける際のポイントや接し方など、改めて学ぶことができ、実践していきたい
- ・認知症の方の見えるもの、混乱している心情を体感することができて良かった
- ・今後の仕事でのケアに、この体験を役立てたい
- ・大城さんからのコメント良かったです
- ・360度の映像体験で、当事者の視覚からの状況をリアルに近い状態で不安など体験して、本当に大変さが色々な形であるのだとわかりました。
- ・今回、感情を体験することができた。
- ・VR体験では認知症の気持ちを理解しやすいと思う
- ・認知症については関心があったので、勉強会など積極的に参加していましたが、今回のVR体験では、全く別の感覚になりました。体験は一見にしかず、勉強会とは全く違う勉強になりました。
- ・実際に認知症のかたが体験している状態におかれたので、恐怖、戸惑いがわかりました
- ・当事者の目線から学ぶ事が沢山あり、ケアの仕方など考え直す必要があると思った
- ・どの認知症のタイプでも、今どう考えているか、どんな状態かを聞いてあげることが大切
- ・大城さんの話を伺う事ができて感謝しています
- ・こちらが促してもご本人が拒否している時は、単なるわがまま以上の「何らかの理由があるのだろう」と考えるきっかけになった
- ・VRを利用して少しでも認知症の方の気持ちに共感もてたことが良かった
- ・自分の意識改革にもなり、今後どのように行動していこうかと考えさせられました

問 要望はありますか

- ・色々なパターンを体感してみたい
- ・沖縄にも沢山来て体験を広めて欲しい
- ・対応のしかた
- ・定期的にこのような研修期をもうけてほしい
- ・地域作りで毎年イベントを開催している。子供から高齢者までVRにふれて欲しい
- ・参加者1人に付き、1台VRがあれば良いと思います。もっと色々なVRを体験することが出来れば、世の中での理解も広がると思います
- ・事業所へも出張VR研修等が可能であれば是非実施したい
- ・市町村認知症サポーター養成講座でもVRを利用できないか

- ・また開催してほしい
- ・事務所の職員にもすすめたい
- ・多くの方に体験してほしい
- ・早い内にそういう体験が出来たらいい。学校や地域で取り組めるようにしてほしい
- ・このような機会を増やして欲しい
- ・もっと沖縄でVR体験を増やしてほしい。沢山の県民に知って欲しい
- ・認知症になっても住みやすい居場所づくりを目指して、もっと地域にも（公民館でも）VR体験できるように広めてほしい
- ・介護、医療の専門教育現場にも、多様な体験のできるVRを取り入れてほしい
- ・今回希望したが、人数制限のために参加できなかったクラスメイトにも、是非この貴重な体験をしてもらいたい
- ・VR認知症体験をもっともっと多くの方に体験していただき、理解者が増えると良いと思う
- ・私の会社の仲間にも体験してほしい
- ・出張講義を沖縄でも、どんどんしてもらいたいです
- ・出来るなら、1事業所ごとに研修を行なってもらいたい
- ・色々な場所でVR体験できると、理解が深まったりサポート出来る人が増えると思います。
- ・沖縄の小学校でもVR体験をしてほしい
- ・子供達にも、是非やってほしい
- ・介護、看護の現場も皆に体験してほしい
- ・もっと一般の方が多く体験できるよう周知して頂きたい

主催者所感：

平成29年度の沖縄県若年性認知症支援推進事業で開催した講演会では、認知症の正しい理解に向け、よりその本質を県民へ広く啓発する目的で、認知症当事者に登壇頂き、生の声を届けて頂いた。今回は、VRという機器を活用し、認知症当事者の感じていることを体験し、その直後に若年性認知症と公表している大城勝史さんにも自身の体験を発表頂くという講演会を開催した。アンケート結果からも、認知症の本質を知って頂き、講演会の目的に沿った開催となったと思われる。機器の活用で、より効果のある認知症の理解促進と啓発に向けた講演会になったと感じる。

おわりに：

VR研修はその費用（講師料、VR貸出料などセット料金）が高額であったため、ひとつの事業での開催は不可能であった。沖縄県社会福祉協議会 沖縄県介護実習・普及センターが主催する福祉機器展2018との共催で、実現した講演会であった。沖縄県社会福祉協議会さまに、心より感謝申し上げます。

当日、VRの装着と指導には技術が必要であった。費用の工面でインストラクターは一人で来沖となったが、運営では複数名のインストラクターが必要な研修と感じた。更に、一人でも多く受講して頂きたいと二人一組で一台のVRを体験頂き、更に二日間の開催を企画した。VRのセンサー感度は良く、夜間に装着バンドがセンサーにふれてしまったことで、二日目の朝にはバッテリーが落ちていた。二日目の開催ではバッテリー切れによる中断で、参加者に大変不快な思いを与えてしまった。運営の不備が多く、ご迷惑をおかけしました参加者の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。

当日の様子



本来一人一台の研修であるが、今回は二人一台で開催した。



二日間に渡り、大城勝史さんに自身の体験も重ねて発表頂いた。以上 報告中野